

『長野県緊急調査報告書』における方言の待遇表現の比較

著者	清水 真弓
出版者	長野県ことばの会
引用	ことばの研究 8: 8-18(1996)
発行年月日	1996-10-31
URL	http://hdl.handle.net/10091/00022407

『長野県方言緊急調査報告書』における方言の待遇表現の比較

清水 真弓

1. はじめに

1. 1 長野県方言緊急調査報告書の概要

文化庁による「全国方言緊急調査」が、長野県では昭和53年度から55年度にかけて行われた。『長野県方言緊急調査報告書』（昭61.3）はその成果報告書で、調査5地点方言の「場面設定の会話」と「自由会話」の文字化資料と録音テープからなる。

長野県教育委員会文化課は、馬瀬良雄氏を主任調査員に委嘱、両者の協議で調査地点と調査員が以下のように決まった。（注1）

長野市松代地区 青木千代吉氏、小諸市滝原地区 上原邦一氏、伊那市羽広地区 藪原繁里氏、栄村秋山地区 尾身栄一氏・馬瀬良雄氏、開田村西野地区 諏訪坂勘一氏・山下千一氏である。

長野市松代地区は北信方言、小諸市滝原地区は東信方言のそれぞれ代表地点として、伊那市羽広地区は地域的には南信地方に属すが、方言の上からは中信方言の代表地点として選定され、栄村秋山地区は奥信濃方言の代表地点、開田村西野地区は地域的には中信地方に属すが、方言の上では南信方言の代表地点として選定されている。栄村秋山地区と開田村西野地区は、秘境の方言という特色も持っている。

「場面設定」の会話では、各種挨拶や、依頼・助言・談判・勧誘などが取り上げられており、すべて2人の会話から成り立っている。あらかじめシナリオを作って演じる点で自然な会話とは異なる。

調査されたもののうち、収録された場面設定は以下の通りである。

- ①見送り（釣りに行く夫を見送る）
- ②迎え（釣りから帰った夫を迎える）
- ④辞去（夕食をごちそうになり帰る）
- ⑤道でのあいさつ（久しぶりに町内の年長者に会う）
- ⑥祝儀（本家の長男の結婚を祝う）
- ⑦不祝儀（隣人の妻の死を悔やむ）
- ⑩物を借りる（隣家からはしごを借りる）
- ⑫無心（親友に借金を申し出る）
- ⑬指示・助言（剪定の仕事について指示・助言する）
- ⑯談判（犬の放し飼いをやめるよう求める）
- ⑰勧誘（町会のバス旅行に誘う）
- ⑱願望・許可（実家に帰りたいとする申し出を許す）
- ⑲おわび（借りた皿を割ったことをわびる）
- ⑳買い物（孫のズック靴を買う）

（注1） ただし、小諸市については2年目より宮嶋正範氏が担当、また、開田村に

については2年目より山下千一氏が担当、さらに開田村・栄村については、まとめの段階で青木千代吉氏の協力を仰ぐことになり、筆者もこれに若干関わった。

1. 2小論の目標

ここでは報告書の中の「場面設定の会話」を取り上げ、方言の待遇表現の比較検討を試みた。場面設定の会話は、対面での1対1の会話から成り立っており、どの場面にも多く用いられているのが「依頼表現」であった。そこで、依頼表現を含め会話の中に現れる待遇表現に着目し、各地点の待遇表現の異同と、語彙調査では得にくい文末表現や、対面での会話でこそ得られる依頼表現の特色について明らかにしてみたい。ただし地点によって調査者が異なっており、シナリオにも独自性が含まれるため、一概に短文を抜き出して比較対照することはできないことに留意した。また、今回は『長野県方言緊急調査報告書』から、待遇表現を帰納した考察であり、報告書に現れなかった表現も当然存在するはずであるため、体系化はしない。なお、各地区の方言体系については『長野県史 方言編』を参考にした。話者は、明治35年から大正8年生まれの男性及び女性である。

2. 待遇表現の比較

2. 1 敬語の比較概要

待遇表現の中の敬語については、学校文法でも用いられる尊敬・謙譲・丁寧の三分類で考える。また、「～してください」「～してくれないか」という依頼表現については、別立てで扱うことにする。まず出現した敬語について地区ごとにまとめてみた。()内の数字は出現回数。活用語は終止形で示した。

[栄村秋山地区]

丁寧語 ゴザエマス(1) ナコナル(亡くなる)(1)
～コツツオ(ことよ)(5) ～カエ(かえり)(2)

[長野市松代地区]

尊敬語 アガル(食べる)(1) ゴランナサイ(1) ～レル(4)
オ～ニナル(2) オ～ナサル(3) オイデナサル(3)

謙讓語 申ス(4) 参ル(2) イタダク(3) ウカガ° ウ(1)
サシアゲル(1) アカ° ル(参上する)(4) オ〜スル(3)
丁寧語 ゴワス(7) ゴザイス(9) ス(4) ヤス(24)
ゴザイマス(3) デス(38) マス(2) イタシマス(5)
デスイヤー(5) オリマス(2) ナクナル(亡くなる)(1)
接頭語 オー(36) ゴー(8)

[小諸]

尊敬語 オ〜ナサル(2)
謙讓語 申ス(3) イタダク(2) チョウダイスル(1) ウカガ° ウ(1)
アカ° ル(参上する)(1) アケ° ル(差し上げる)(2)
オ〜スル(3)
丁寧語 ゴワス(39) ヤス(27) デスワイ(2) デス(11) マス(9)
〜デヤスイ(5) イタシヤス(2) ナクナル(亡くなる)(1)
接頭語 オー(38) ゴー(9)

[羽広]

尊敬語 〜テオイデ(いらっしやい)(4) オイデナスツテ(1)
〜レル(1) ゴランナ(1) クダサル(1)
謙讓語 イタダク(4) アケ° ル(差し上げる)(1)
オ〜スル(9)
丁寧語 ゴザンス(2) ゴザイマス(16) デス(5) マス(16)
〜エ(16) 〜ネ(55) 〜ダニ(1) 〜ニ(1)
イタシマス(12) ナクナル(亡くなる)(1)
接頭語 オー(43) ゴー(2)

[開田]

謙讓語 ヨバレル(いただく)
丁寧語 ナグナル(亡くなる)(1) 接頭語 オー(4)

まず、明らかに栄村秋山地区と開田村西野地区の方言には尊敬・謙譲・丁寧語がほとんど出現せず、待遇表現が他に比べて著しく乏しいことがわかる。

開田村では、文末に「ヨー」「イエナー」「ナー」「ゾ」といった終助詞が大変多く用いられていたが、そのうち「ゾ」は⑩談判で多用されているので親愛や敬意を含まないと判断した。「ヨー」は⑩談判で1回も出現しないが、依頼表現では多用され、孫に対しても用いることから、丁寧語というより親愛を示す語と考えた。

栄村秋山では丁寧語として『長野県史 方言編』でも取り上げられている「カエー」以外に、「コツツォ」を取り上げてみた。

①⑦勧誘 ホアショアー エグコツツォ。(そうすれば、行きますよ)

②⑩買物 ホアセヤ アレダコツツォ サンゼンエンダコツツォ コレガー。

(そうすれば あれですよ 三千元ですよ、これが。)

③⑩買物 ホアセヤー マー マゲルコツツォー

(そうすれば まあ まけますよ)

①⑦の注によると、「この場合エクテ・エゴーが一般的」とある。例が少ないので断言はできないが、「ことよ」という意味の文末表現「コツツォー」には丁寧さを含むのではないだろうか。

以上のように待遇表現に乏しいため、他地区で尊敬語や謙譲語が使用されている部分は、敬意を含まない表現になっており、⑩物を借りる⑫無心などの丁寧さや敬意を含めたい依頼表現の場合は、秋山地区では婉曲表現が使われ、開田村では婉曲表現もなく、「クリョー」(くれよ)が多用されている。『長野県史 方言編』によると秋山・開田以外でも奈川村で敬語体系が分化していないという。

他地区においては、『長野県史 方言編』でも、丁寧語になる終助詞・補助動詞は多く上げられているが、どの地域でも謙譲語は余り発達していないという。また東信は北信ほど敬語体系が発達していないというが、ここでも同様の結果である。長野市松代地区では多くの尊敬語が出現しているが、小諸では「オ～ナサル」のみ、伊那市羽広でも4語があるのみである。尊敬語については、場面の設定が特別に敬うべき人との会話というのではなく、年長者との会話・本家と分家という程度であったことが、多様性のあらわれない原因であるが、さらに会話をする話者の実年齢差が、最高で松代の④⑥⑩の12歳差、最低が羽広の⑦⑬⑰⑳の1歳差であり、会話を演じる上で敬意の払い方に少なからず影響を与えていると考える。謙譲語・丁寧語については、語彙

数はどの地区も同じくらいだが、どれも共通語形に近いものであった。次に各敬意で特徴的な語について考察してみたい。

2. 2 尊敬語

尊敬語は、尊敬の助動詞「れる・られる」、「見る」「食べる」「来る」といった動詞の尊敬語が出現し、共通語形と同じものがほとんどである。

各地点を比較すると、松代と小諸に「オ～ナサル」が出現するが、小諸では2例のみであり、「オ～ナスッテ」という促音化した連用形が依頼の文末表現「クンナンシ」の前に接続し、尊敬語を加えることで最高の敬意を表現している。他の活用形が出てこなかった点で、松代よりも使用の幅が狭いと言える。『長野県史 方言編』でも「～なさる」が取り上げられているのは、北信地方のみであった。以下文例の数字は、1. 1で示した各地点に共通している場面設定番号である。まず、小諸の例を次に上げる。

⑥ オアカ° ンナスッテ クンナンシ

⑩ オカシナスッテ オクンナンシ

一方松代では尊敬の補助動詞の用法として次の例があった。

⑫ 困ッテオйнаサルコトハ (連体形)

① オ出掛ケナサリスカ (連用形) (「なさりますか」の方言形)

① 持ッテトクンナサレバ (假定形)

① 待ッテトクンナサイヤ (命令形)

⑰ ゴ相談オヤリナシテ (命令形)

松代の假定形「ナサレ」と命令形「ナサイ」については、どちらも①見送りで妻から夫に対する言葉のみに現れ、しかも「クン」がついて一文節になっている。命令形として一般的に松代で使われているのは「ナシテ」であろう。

また、共通語では「～ている」の尊敬として現代はほとんど使われていない「～ていなさる」が古い形として存在するが、松代でも同様に「～テ オйнаサル」「～テ エナサル」の用法がある。

⑫ 困ッテ オйнаサル コトワ ヨク ワカルンダガ°、
松代では、さらに「オインナサル」があるが、これは

① 今日ハ ドコ オインナサリス。(今日はどこへおいでなさりますか)

⑥ コンニチハ オインナシタシカイヤー。(おいでなさったかいなあ)

であり、「おいでなさる」の方言形で、本動詞「行く」「居る」の尊敬語になっている。伊那市羽広でも

⑤ ウチー オイデナスツテ、一杯 オ上ゲシタイト

本動詞「来る」の尊敬語としての用法が1例あるが、羽広ではむしろ「おいで」が「おいでなさい」の意で、命令・要求を表す用法が4例あり、こちらの方が多く用いられる。

④ 傘 モツテオイデ。

⑱ オ茶デモ ノンドイデナ。(飲んでおいでな)

2. 3 謙譲語

謙譲語は先にも述べたように、栄村秋山では用いられなかった。次の例が見られた地区でも共通語と同じ用法がほとんどである。

松代⑦ オ聞キモーセバ、

⑱ オ願イカ° アツテ マイリヤシタ。

小諸⑱ オ願イカ° アツテ アカ° ッタワケデスカ°、

⑦ ゴ心配ヲ シテ イタダキヤシテ、

羽広⑥ オ茶 イッパイ イタダイテ、

「お～する」で作る謙譲表現が、次のように見られるが、特に伊那市羽広で多く使われている。

松代④ オ借リシテ マイリス。

小諸⑩ 手ヲ オ借リシタイ

羽広⑤ 一杯 オアケ° シタイ

⑦ オ会イシテ

⑱ オムライシタイケード

⑱ カンベンシテ オモライシタイデ

⑳ ヨロコンデ オムライシルカモシラン

特に「モラウ～ムラウ」という動詞に付いて「いただく」という意味を表す用法だけで4例も出ているが、これは共通語表現ではない動詞の使い方である。菊地康人(1994)によると、「お～する」は「～を、に、から、と、のために、について」の人物が補語として想定できる動詞で作られるというが、羽広では、特に「お上げする」

「お会いする」「お返しする」といった「～に」という補語が想定される場合と、「お借りする」「お受けする」といった「～から」という用法でのみ用いられており、「もらう」も「～から」という人物の補語が想定できるために違和感なく使われているのだろうか。

2. 4丁寧語

「ございます」「ます」の方言形についてみると、松代・小諸には「ゴワス」「ヤス」という共通する形があるが、羽広には「ゴザンス」が2例あるのみで、東北信とは全く異なる。『長野県史 方言編』でも、東北信にヤス・ゴワス、中信の大町市方言では、マス・ゴザンスが、南信の長谷村非持山方言ではゴザンス、中川村片桐方言では、アリマス・ゴザイマスが報告されており、東北信と中南信に大別できることがわかる。羽広では「ゴザイマス」「マス」は音韻変化も起こさず、共通語形と同じであった。他地区と比較すると、羽広では文末に～エ・～ネ・～ダニをつけて親愛を示す用法が多く現れていたのが特徴である。文末の助詞が多様であるのは先にも述べたように開田村西野でも同様である。

松代と小諸を比較すると、小諸では「ゴワス」「ヤス」と共通語形と同じ「デス」「マス」だが、松代では共通語形と同じ「デス」「マス」、「ゴワス」「ヤス」以外に「ス」「ゴザイス」の用法も多く出現している。『長野県史 方言編』でも東北信に共通して「ゴワス」「ヤス」が記載されており、「ス」「ゴザイス」は川中島平を中心とする地域で用いられ、「マス」「ゴザリヤス」の変化形であるとされる。今回拾い出してみると、「ス」は4例しかなく、特に「ヤス」との使い分けはない。

④ オ借リシテ マイリス。 ⑥ ～トオモイス。(とします)

⑩ 困ッチヤイシタナー。 ⑭ 申シ訳アリシネ。

「ゴザイス」も「ゴワス」との使い分けはない。

松代・小諸に共通する「ヤス」については、松代ではヤス・ヤシ・タ・ヤシ・テ・ヤショ、小諸ではヤセ・ン(打ち消し)・ヤス・ヤシ・タ・ヤシ・テ・ヤショの活用形が見られる。

「ヤス」と「ゴワス」について、小諸では「ゴワス」の方が「ヤス」より敬意が高いと⑭の注にもあるが、小諸の「ゴワス」の用例を見ると、

アリガトー～18例 オツカレデ～6例 ケッコーデ～4例

オハヨー～2例 オメデトー～2例

ほか、お気の毒で～・お元気で～・簡単で～・ことで～・わけで～ であった。松代でも

アリガト～6例 オメデト～2例 オハヨー～2例

ほか、とんだことで～・どうで～・申し上げようもゴワシネー であり、どちらの地区も共通して挨拶や形式的な表現で出現することがわかる。これらの上接語は、「ヤス」には上接しない。小諸⑤挨拶の注によると、「オツカレデゴワス」と年少者が言った場合、年長者は「オツカレデス」と返すこともあるという。

3. その他の待遇表現

3. 1 疑問を表す語と呼応する～デスイヤー・～デヤスイヤー

今回各地区を比較して、「いつ・どこ・何」を問う疑問文で、松代では「～デスイヤー」、小諸では「～デヤスイヤ」という用例が見えてきた。

松代⑫ ナンデスイヤー ⑬ イツデスヤー ⑭ イクツデスイヤー ⑮ ドンナトコデスイヤー ⑯ イカガ° デスイヤー

小諸⑰ イツコ° ロイクデヤスイ ⑱ イクラカカルデヤスイヤ

⑲ イツイクヨーナワケデスイ ⑳ ドーデヤスイヤ

㉑ ドーデヤスイ

特に⑰勧誘⑲買い物場面設定に共通して使われている。敬意はそれほど高くないと思われるが、「いつ・どこ・何」の疑問の時だけに用いられる親愛と丁寧な気持ちを表す表現と考える。

3. 2 依頼表現

各地区の依頼表現とその語例を次に示す。見出しの(テ)(ト)は、下の語例記載の都合で重なって表記している部分であり、() は出現回数である。松代 ～(テ)オクンナシテ [～(ト)クンナシテ] (24)

ヤッテッテ～ 帰ラシテ～ 来テ～ オ参リサシテ～

安クシテ～ 貸シト～ 待ット～ アカ° ット～ 言ット～

言イツケト～ 心配シト～ 行ット～ 使ッテミト～

勘弁シト～ 置イト～

オ～ナシテ (5) オ持ちナシテ オアカ° リナシテ オ使イナシテ

オ出掛ケナシテ オヤリナシテ

小諸 ～(テ)オクンナンシ [～(ト)クンナンシ] (30)

取ッテ来テ～ 出掛ケテ～ オアカ° ンナスツテ～

出シテ～ 貸シテ～ 勘弁シテ～ 堪忍シテ～ 出シテ～

遊ソド～ 来ト～ ヤット～ 使ット～ 寄ット～ 見セト～

見ト～ 話シト～

～(テ)オイデナンシ (6) 着テ～ 行ッテ～ 帰ッテ～ 探ッテ～

～ナンシ (2) アッタマリ～ 着替～

オ～ナンシ(3) オ帰リナンシ オ持ちナンシ オ使イナンシ

羽広 ～(テ)オクンナ (～(ト)クンナ) (8)

貸シテ～ 申シコンドイテ～

持ッテット～ 帰ット～ 入ット～ 使ット～

オ～ナシテ (1) オ持ちナシテ

～(テ)オクレ (4) 来テ～ 帰ッテ～ 座ッテ～ 持ッテイッテ～

～(テ)クダサイ (7) アカ° ッテ～ クルンデ～ オ待ち～

ユイツケテ(言いつける)～

秋山 ～(テ)クンネアカナー (8)

ヤッテ～ 飲ンデ～ 貸シテ～ ケアーシテ(返して)～

出サシテ～ オッテ(売って)～ メシテ(見せて)～

～ネアカナー (2) 貸シテモラエネアカナー

～テクレルベナー (1) 貸シテクレルベナー

開田 ～(テ)クリヤー (9)

貸シテミテ～ 持ッテッテ～ マゲテヤッテ(まけてやって)～

～(テ)クリョ (4)

マゲテ(まけて)～ ニーッテ(握って)～ 飲ンデ～

2. 1でも述べたが、秋山・開田には尊敬語がなかった。

秋山 ⑩ ハシゴ° シトツ 貸シテ クンネアカナ。

開田 ⑩ ソイツー 貸シテ ミテ クリヤー。

柴村秋山では、「飲んでくれ・受け取ってくれ・貸してくれ・出させてくれ・売ってくれ・見せてくれ」という依頼の時に「～シテクレネアカナ」という婉曲表現が使

われている。依頼でも⑩談判の時には、「(犬を) ツナエデ オエテ クレゾァー」(くれよ)と、より直接的な表現になるので、上のような婉曲表現は親愛や丁寧さを含んでいると言える。

一方、開田村西野では、依頼に婉曲表現はなく、「してくれよ」と直接的な表現であった。ただし⑩願望・許可の注によると、「一身上の願いの場合、「二、三日 休マシテ ムライテーガ°」とはっきり言わず「二、三日 アレシテ ムライテーガ°」とぼやかして言う傾向がある」という。また、挨拶言葉は次のようになっている。

⑦ ユルイテクリョー (ごめんください「許してくれ」が原義)

⑧ ヤスツデクリヤー (おあがりください「休んでくれ」が原義)

⑩ ヨゴイテ クレテ スマナンダヨ (結構な品をよこしてくれて、済まなかったよ)

⑩ ドーガ タノムヨ

(どうか お受け取りください「どうか頼むよ」が原義)

() は逐語訳でなく、報告書に記載されている共通語にした場合の意味である。敬語がないことは挨拶言葉からもわかるが、定型的表現が他地区に比べて多かった。

一方敬語の存在する松代・小諸・羽広は、一連のつながりがありそうである。松代でナシテ類、小諸でナンシ類、羽広ではオクンナが現れた。羽広でナンショ類があってもよさそうだが、『長野県史 方言編』によると南信で用いられるナンショは敬意が高いので、この場面設定程度の相手では用いられなかったと考える。羽広ではむしろ共通語形の「クダサイ」の方が多く使われていた。

「ナシテ」と「ナンシ」について、報告書の注では松代の「ナシテ」はナサルの連用形ナサツテクダサイの簡約形(P 20)とある。一方「ナンシ」は小学館『日本国語大辞典』によると、「なさります」の変化してできた語で、「お～なさいます」の意。江戸語の尊敬の補助動詞「なんす」の命令形。ナンシの前に接続する動詞は撥音便形になる場合がある、という。『長野県史 方言編』では、上田市で「～ナスツテ」という形があるので、「ナンシ」「ナスツテ」「ナシテ」は東北信で連続して変化している語ではないか。

4. おわりに

今回青木千代吉先生追悼号で『長野県方言緊急調査報告書』の資料を用いて執筆し

ようと思ったのは、私自身がこの方言緊急調査で青木千代吉先生と何度もご一緒させていただき、開田村や栄村秋山地区の補充調査にかかわったからでした。当時は大学3年～4年の春にかけての頃で、何人かの学生が馬瀬先生のお手伝いをしながら、報告書の補充調査・最終的な清書と録音テープの編集に携わりました。青木先生はたいへん穏和な方でしたが、補充調査の際には穏和な中にも実にねばり強く疑問を問いただしておられ、研究に対する厳しさも教わった気がします。

また、87年か88年の「長野県ことばの会」研究発表会の帰りに、松本から長野までご一緒させていただいたことがありました。1時間半の短い時間でしたが、先生は松本駅で天津甘栗とホタテの貝柱を買われ、「電車の中で食べるにはこれが一番ですよ」と、甘栗のむき方など教えてくださりながら、北信の方言の話、長野県教育界の話などをしてくださいました。青木先生の暖かいお人柄に接することができ、普段通り慣れた篠ノ井線で唯一楽しい列車の旅だったのでたいへん印象に残っています。

青木先生の訃報に接し、当時のことを偲びながら、つたない小論を書き上げました。心からご冥福をお祈りいたします。

5. 参考文献

『長野県史 方言編』 馬瀬良雄 平成4年 長野県史刊行会

『敬語』 菊地康人 1994 角川書店

『敬語』 南 不二男 1987 岩波新書

『日本方言大辞典』 1989 小学館

(しみずまゆみ・長野県中野高等学校教諭)